

横浜市立浅間台小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・校内授業研やブロック研において「学ぶ楽しさを味わう授業」の実現に向けて言語活動の充実を重視した授業の情報交換を行い、日々の授業で実践する。	・身につける力を明確にして、単元を貫く言語活動を選びそのあり方を研究した。来年度は、よりよい人間関係を育成することも意識した研究を目指す。	A B C D
2 豊かな 心	・地域の方々と交流を図りながら路耕、地耕、知耕の教育活動に取り組む。 ・各学級で年1回は道徳の授業公開をする。	・三耕教育を通して、地域の方と交流を図りながら感謝する気持ちを育んだ。校外においても地域の一員として行動できるようにしたい。 ・道徳の公開授業については、次年度も継続していく。	A B C D
3 健やかな 体	・体力向上1校1実施運動として、週2回なわ跳びを休み時間に継続して行う。 ・長期休業期間中に、生活振り返りカードを活用する。	・なわ跳び活動は年間通して実施されたが、高学年になるほど参加が難しい。内容や取組方を改善していく。 ・休業期間中は家庭の協力のもと、振り返りカードを活用し、よい生活習慣の保持に努めた。	A B C D
4 教育課程・学習 指導	・浅間タイムに週1回はまっこだリル、読書タイムを実施し、基礎・基本の定着を図る。 ・年間通して、全学年で栽培活動に取り組む。 ・路耕(剣道・茶道)を中高学年9時間、低学年5時間を実施する。	・次年度もまっこだリル、読書タイムを継続し、基礎・基本の定着を目指す。 ・本校の特色ある教育活動である栽培活動と路耕については、各学年の教科・領域と関連を図ると共に、育てたい力を共有して地域の方とともに指導にあたる。	A B C D
5 児童・生徒 指導	・児童支援専任だよりを学校だよりに掲載し、地域・家庭に向けて啓発活動を行う。 ・YPやいじめアンケートを活用して、いじめの早期発見解決につなげる。	・児童支援専任だよりは、来年度も学校だよりに掲載し、地域・家庭への啓発に努める。 ・次年度は、YPの有効活用について研修を行う。いじめ防止基本方針を共有し、組織でいじめ防止にあたる。	A B C D
6 地域連携	・祭礼のパトロール、文化スポーツ主催草むしり、健民祭、同窓会主催もちつきなど地域の行事に教職員も積極的に参加する。 ・学校だより、浅間台ニュース、行事ポスターなどをふれあい掲示板に掲載し、地域に情報を発信する。	・今後も、地域とともに歩んでいく姿勢を大切にしていく。 ・学校だより、ふれあい掲示板だけでなく、学校HPを活用し地域に学校の情報を発信していく。	A B C D
7 人材育成 組織運営	・メンターチームを中心とした各教科の研修を年間8回計画的に行う。 ・ブロックで児童指導、教材研究、交流活動に取り組む。	・次年度は各教科提案の研修だけでなく、重点研究にかかわる国語科の内容を充実させていく。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・まちの教育座談会での発表を通して、子ども達自ら地域へのアピールを十分に行うことができていた。また、2月に行われたミニコンサートでは、子ども達がのびのびと演奏し地域の方々を楽しませていた。 ・三耕教育は豊かな心の育成だけでなく、地域連携や特色ある教育課程の面からも有意義な取組だと思われる。 ・あいさつについては、岡野中、平沼小との連携を強化し、校外においても進んであいさつができるようにしていきたい。
学校関係者 評価結果	・地域や保護者に学校の教育活動について学校説明会などの場でいねいに説明し、共通理解のもと連携して子ども達の教育活動にあたる努力が必要。 ・豊かな体験活動を通して、子どもたちが生き生きと学習し、学ぶ楽しさを味わっている。
評価結果に 対する 学校の見解	・三耕教育については、教育課程上の位置づけを見直しながら、児童の実態に即した取組に発展させる。 ・学校からの情報発信については、学校HPの全面改定、学校説明会の内容の見直しを行い、学校の取組が伝わりやすいものにする。

学校経営 中期目標 達成状況	・共通取組内容については一定の成果が見られたが、各内容について、より一層の充実を図る必要がある。 ・重点取組内容については、児童指導関係、地域との連携にかかわる内容共に充実したものになった。
----------------------	--

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・話し合いの進め方や話の中で使うことのできる語彙を豊かにするために重点研究を通して具体的な手だてを講じる。 ・体験したことや学習したことを伝え合い交流する場面を設ける。そこでの思いや願いをさらに他の学習につなげる。	・語彙表の作成、活用など、意識して取り組んだ。結果・成果はすぐには見えないが、学習時に辞書や地図帳に頼りずらい雰囲気となった。 ・重点研究を通して、意識して取り組んだ。	A B C D
2 豊かな 心	・たてわり活動において学年ごとにめあてを設定し、振り返りを可視化し達成感が味わえるようにする。 ・子どものモデルになるように教師が率先して場に応じたあいさつをする。	・振り返りの可視化の取り組みがまだない。 ・学年ごとのめあての設定が必要。 ・「教師のモデル」については、意識的に行われていたが、児童の日常化、習慣化、自分から進んでという態度はもう少し。	A B C D
3 健やかな 体	・休み時間や体育の授業内でなわとび活動を取り入れる。全校で活用できるカードを作る。 ・中休みの体育館活用の仕方を工夫し有効活用する。 ・学校説明会や懇談会を通して「早寝・早起き・朝ご飯」をよびかける。	・活動を継続して行った。参加できた児童については成果があるもの、参加しなかった児童も多数おり、全校をあげた取り組みにすることが課題。 ・比較的体育館活用はできていた。学級などでさそい合っている様子が見られる。学年間で一緒に行うことや、人数が多く、多様な遊びを同時に行っていることなど良い点もあり、改善点もある。 ・情報発信は行っていたが、定期的に呼びかけ、変更等を伝えることができなかった。実際にできていない児童も高学年になるにつれ多くなっていることもあり、今後方法を工夫して取り組む必要がある。	A B C D
4 教育課程・学習 指導	・全学年でノート指導のスタンダードに取り組み、学習のスキルアップにつなげる。スタンダードに沿う良さを伝え、誰もが安心して学習に取り組めるようにする。	・スタンダードの配付で、ノートのまます目を学年の実態と合わせることができた。 ・各教科ノート指導の方法を統一することは難しい。 ・生活科、理科、家庭科等に関連する栽培活動を行った。 ・後期の栽培活動は、うまくいかなかった。	A B C D
5 児童・生徒 指導	・児童がスタンダードの良さを自分で考え納得できるものを作成・提示する。また、教職員が共通認識をもって一貫した児童指導を行う。 ・「いじめ防止基本方針」にしたがって、いじめ防止及び早期発見のために児童支援専任を中心に組織的に取り組む。	・スタンダードを作成した。教師の共通理解は進んでいるが、児童が周知し、良さを実感できるまではいたっていない。 ・アンケート2回、いじめを考える週間などで、早期発見や防止に取り組んだ。 ・いじめ防止対策委員会を開催するなど積極的な対応がさらに必要だった。	A B C D
6 地域連携	・地域の方や保護者の方がいつでも学校について見たり、確認したりできるように学校だよりとHPを連動して、地域に発信していく。 ・地域の材を生かした学習を展開する。	・学年だよりをもとに学校だよりに学年の活動を載せることを予定したが、容量の都合等があり実現できなかった。 ・栽培活動、浅間米づくり、アスチック整備、まちたんけん、工場見学などを各学年で実施できた。	A B C D
7 人材育成 組織運営	・AB研や市研の研究成果をメンターチームで伝え合ったり、ファイルに綴じて閲覧できるようにしたりすることにより、様々な教科・領域の研修を自主的に行えるようにする。 ・ブロックで児童指導、教材研究、交流活動に取り組む。	・年間計画に研修を位置付けたが、見直しをもって取り組むという意味では、十分ではなかった。 ・ブロック及び、それぞれの分掌で情報を共有し合い、協力して教育活動に臨めた。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・学習面では、めあて達成のため効果的な課題解決学習が位置付けられており、児童が生き生きと取り組む姿が見られる。 ・国語の研究では掲示などから、日常的に言語活動に取り組む様子がうかがえる。 ・恵まれた学校環境を有効に活用し、カリキュラムの中に体験的な活動が計画的に位置づけられている。 ・中学校ブロックで協働し合い、あいさつ活動を今後も継続させる。
学校関係者 評価結果	・年度のまとめや、次年度の方針がしっかりと考えられていてすばらしい。 ・子どもたち一人ひとり持っているいいところをお互いに見つけて、評価する「システムアワード方式」を取り入れてもよい。 ・教師の自己評価をもとに、よい教育をしている。 ・PTAとの連携、小中連携、地域連携を効率的にすすめていただきたい。
評価結果に 対する 学校の見解	・本年度、実効性向上を目指し着手した行事の内容検討を、さらに効果的にカリキュラムに反映させていく。 ・組織としての教育力向上のため、分掌ごとのリーダーシップが無理なく発揮できるよう、校内の検証・自己評価システムを早急に整備する。

学校経営 中期目標 達成状況	・校務分掌の整備・再構築がなされ、取組内容の達成目標に対する各分掌のベクトルが整いつつある段階にある。 ・心と体の健康という点については、それぞれの研究指導部が計画を確実に実行していくことで、より質の高い取組内容へとつながる見通しがもてている。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・マイ辞書の活用を日常化する。 ・単元でねらう語彙や、場面に合わせた語彙に絞って身につけさせる。現在の知識を確認して、どれだけプラスできたかを認知できるように取組にする。 ・課題的解決的な学習を意識し、話し合いの目的をもって自ら解決しようとする主体的な学びをつくる。	・マイ辞書・・・達成率・成果率ともに低いが、さらに習慣化したり環境を整えたりしていき、成果が上がってくると思える。そのため、次年度も継続して取り組んでいく。 ・語彙指導・・・提示することはできた。 ・相手意識、目的意識をもって学習に臨めるようになった。	A B C D
2 豊かな 心	・年間を通して、活動の計画や振り返りのカード等を班ごとにまとめていく。(ファイルや掲示板等) ・学年ごとのめあての設定をする。 ・1～3年、4～6年の集いや活動を行う。 ・「教師のモデル」を今後も意識的に行っていく。 ・児童が進んで自分からあいさつできるように日常的に学級で指導する。 ・あいさつ運動を5月、10月に行う。	・たてわり活動の年間を通してのファイル等を使っている振り返りは行わなかった。 ・学年ごとのめあての設定はなかった。活動によって学年でめあてをもっと取り組めたものもあった。 ・「教師のモデル」は、成果が出ている。 ・「教師のモデル」は、成果が出ている。 ・学級での日常的な指導も成果が出てきている。 ・5月のあいさつ指導については、生活目標と関連させ、取り組むことの共通理解がなかった。	A B C D
3 健やかな 体	・なわとび集いを年間2回実施し、学級での継続した取り組み成果を子どもたちが共有できるようにする。 ・職員も一緒に活動することで子どもの参加も増えるようにする。 ・継続して呼びかけるとともに、学級活動(2)、道徳などで取り組み、合わせて発信する。	・なわとび集いを実施していたが、全校をあげた取組にはなっていない。縄跳びの内容と取組方に課題が見られた。 ・休み時間に教員が時間をつくるのが難しい。 ・早寝・早起き・朝ごはんの継続を学力テストの結果とともに知らせたことで家庭への周知が図れた。今後も、継続した取組が必要。	A B C D
4 教育課程・学習 指導	・原稿用紙の使い方を例示する。 ・各教科の教科書から抜き出して、参考にしてほしいノートを例示する。 ・各学年に合わせて、担任が指導する。 ・教科・領域に関係のある栽培活動に絞る。 ・夏休みの水やりのことも考えて、植木鉢を使った栽培活動に切り替える。	・学年に応じて指導をしたが、学校全体として確実に実践できていたかはわからない。 ・教科との関連を重視したことで無理なく栽培活動ができた。	A B C D
5 児童・生徒 指導	・月別生活目標と関連させて、4月、10月、3月に重点的に指導し、児童の理解を深め、意識化していく。 ・いじめ防止基本方針に従って、早期発見一対応を組織的に行っていくようにする。 ・いじめ防止対策委員会の開催を年2～3回設定する。ケース会議などがスムーズに行えるようにする。	・スタンダードと月別生活目標との関連についての講話を実践した。児童の浅間台スタンダードの良さに対する理解が深まったとは言えない。 ・いじめアンケートを年2回行うことで、早期発見や実態把握ができていく。いじめ防止対策委員会年2回の開催はできなかった。	A B C D
6 地域連携	・学年ページの実現を図る。学年便りをHPに載せる・・・日程を決めてフォルダにまとめ担当がアップする。 ・総合をはじめとした材の記録を参考にし、取り組んだことを残していく。連絡先や活動内容など。	・HPの作り方や方法については職員間で理解ができた。学年の様子をHPで発信することはできなかったが充実を図るまでは至っていない。 ・昨年までの材の記録が参考になった。仕事体験も増えたため、今後も活用できる。	A B C D
7 人材育成 組織運営	・結果論としてのOJTではなく、戦略的に相互のキャリアを向上させていくという意図をもって、日常的教育活動に臨み、分掌ごとのオペレーターを増やしていく。 ・それぞれの分掌が具体的取組を常に意識し、意図的・意識的な改善が図れるように機会を見て、情報提供したり、取組をしたりする。	・メンター研修を軸とした研修計画も行事計画の変更に伴い、縮小され実施となった。 ・分掌ごとのミドルリーダーからのオペレーションは計画的であり、円滑に推進された。	A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・児童生徒理解、学力の向上という小中一貫の目的にそった取組がなされ、成果に結びつけることができていたのではない。 ・担当学年、担当教員にとどまらず、副校長、教務など様々なレベルでの交流機会を活用し積極的に話題に上げていくことで、別の視点での活動が展開できるのではない。
学校関係者 評価結果	・学力向上、言語力の定着という意味でマイ辞書の取組は高く評価でき、今後も持続すべきである。 ・地耕の取組などでは、年間の計画を学校と地域が事前に共有し合うことで、活動の成果も上がり、地域の方々の貢献に対する達成感も高まると考えられる。 ・評価のスパンを中期、短期の内容も設定することで、児童・教師とも次期に対する意欲が高まると判断される。
評価結果に 対する 学校の見解	・活動の意義や、活動計画を事前に共有することで、本校の特色である地域との協働という側面を、さらに明確に教育活動に反映させていくことができると考える。 ・評価時期やスパンなども再考し、より実効性の高い評価の在り方も検討すべき時期であるとする。

学校経営 中期目標 達成状況	・スタンダードを核として、共通の方針に向かい、着実に評価・改善の歩みを進めることができていく。 ・学力向上の面では、職員個々がすべきことを判断し、日常的教育活動に反映させることができていく。 ・健やかな体の取組が児童自身の主体的な活動となるよう、実効性のある推進計画を再考・作成する時期に来ている。
----------------------	---

※当該年度の達成状況： A…十分達成 B…概ね達成 C…努力必要 D…改善必要